



進学と就職を考える① 就職を選択する意味

基本的には進路選択の際の大学進学と就職を考えるポイントは2つです。

1つは「生涯賃金の差」。平均でおよそ5～6000万円の違いが出ます。大きな金額です。そこで考えるべきは早くから稼ぐか、稼ぎを増やすか、ということです。高卒からの就職については早く経済的に自立したい（あるいはしなければならない）、というケースで選択します。

文部科学省の統計によれば、令和4年3月の高校卒業者数は99万230人で、そのうち高卒で就職を選んだ人の割合は約15%でした。高卒就職の場合、地域差や学校間の差が大きいので一概には言えない部分もありますが、大卒・高卒間の生涯賃金の差が大きいことが就職希望者の減少に影響しています。

独立行政法人労働政策研究・研修機構の『ユースフル労働統計 2021』によると、日本人の生涯賃金は大学・大学院卒の男性で約2億6900万円、女性は約2億1700万円、高卒の男性は約2億1300万円、女性は約1億5200万円だそうです。

もう一つは、「待遇と機会の差」。基本的には大学を卒業した方がより良い待遇や昇進の機会に恵まれます。また、大学を卒業し必要な学問を修めないと就けない職も多いです（但し、業界・業種によっては少しでも若いうちにその世界に入った方が良い場合もあります）。

一方、大学卒になると市場価値が高くなるため、それだけ能力や専門知識・技能を要求されることがあることも理解しておきたいですね。

なお、経団連のアンケートによると、考に当たって企業側が高校生に求めるものは「コミュニケーション能力」が87.0%で13年連続の1位。次いで「主体性」が63.8%で7年連続の2位。3・4位では「協調性」（49.1%）が「チャレンジ精神」（46.0%）を上回りました。

「コミュニケーション能力」には縦の関係（年齢・立場に差）・横の関係（同世代）があります。確かにいつも笑顔で友人に接する人は素晴らしいですね。上司や先輩に礼儀正しく対応し、基本的なルールやマナーがきちんと守れる、そんな人が企業に求められます。

就職を選択する人は、そうした企業の要求をクリアできるように、自分を作っていくって欲しいものです。

